門前の小僧

― 体感する町ごと学び舎 ―

Keywords
教育改革　児童減少　情報社会　公共施設老朽化

dz17079　　櫻木 綾子

1.　はじめに

1.1　ことわざ「門前の小僧習わぬ経を読む」

由来…寺の門前に住んでいる子供や、いつも僧のそばにいる子供は、日頃から僧の読経を聞いているから、いつのまにか般若心経くらいは読めるようになる。

意味…人は自分の置かれている環境によって、無意識に影響を受けている。

筆者は、このことわざのように環境づくりや学校づくり、まちづくりが子供たちひいては大人たちの学びに大きく影響を及ぼしていると考える。

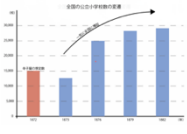
2.　社会の流れと教育の変遷

2.1　江戸時代の教育

江戸時代は、士農工商と身分が分かれていた。それによって、教育も階級に応じ、庶民層は「寺子屋」、武士は「藩校」、民間のアカデミーとして「私塾」、商人職人の間では「師弟制度」が取られていた。特に寺子屋は地域それぞれに設けられ、庶民の子どもが庶民の日常生活に必要な実用的・初歩的な教育を行なう施設であった。平民、武士・僧侶、神官・医者を師匠とし、読み書き、そろばんが教えられた。生活に根ざした教育であり、識字率50%にも達していたといわれ、江戸時代の高い教育水準を支えたと考えられる。

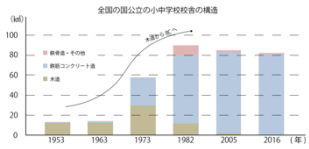
2.2　明治時代の教育

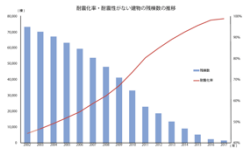
明治時代は、1868年に明治維新が起こり、文明開化、富国強兵が目標として掲げられる。その後、1872年「学制」という制度が設けられ、学校が誕生した。学校教育では、学習指導要項が作られ、1年で行う内容が全国で統一されている。さらに建築計画においてとしても1975年に学校建築図説明及び設計大要が作られ、学校モデルプランが体系化された。それによって全国に学校の数が急増した。



2.3　大正時代・昭和時代前半の教育

1925年関東大震災が起こる。そういった震災から子供たちを守るため、1920年代後半から建築様式が木造からRC造に変わっていった。さらに1978年宮城県沖地震により、1981年に新耐震基準ができ、耐震化をする学校が増える。





2.4　昭和時代後期の教育

1976年あたりから、詰め込み教育による授業で子供たちに余裕もなく息苦しさから校内暴力、非行が起こり、学級崩壊、学校崩壊も起こる。そこで1980年に「ゆとり教育」が開始される。建築面からいくと、1984年に「多目的スペース補助」制度が設けられる。またカリキュラムにおいては1989年に生活科といった変化が起きた。

2.5　平成時代の教育

1995年インターネットが普及し始め、情報社会に突入する。教育業界としても、2020年から小学5年生からの英語導入、センター試験から全国共通試験の変更、また2030年には1人１台のタブレット支給の予定である。

3.　背景分析と参考事例

3.1 背景分析

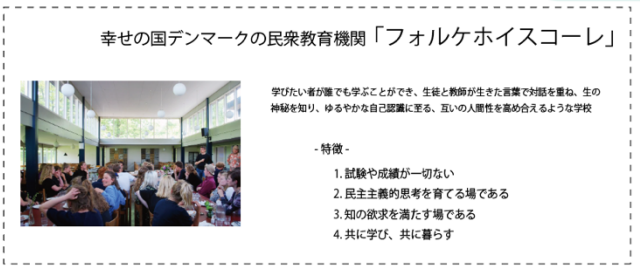
近代以前は、農耕社会(Society2.0)であり、地域に根差した寺子屋が地域の発展に貢献した。読み書きそろばんと生きるための教育は時代に促してていた。
さらに近代以降の工業社会(Society3.0)では、誠実にこなす力、情報を素早く処理する力が求められたため、学校の形が大いに時代にあっていた。しかし、時代は進み、情報社会 (Society4.0)さらには創造社会(Society5.0)に突入したと言われている現代、学校教育は変わっていないわけではないが社会の変化が大きすぎて、対応し切れていない。

また、生活のデジタル化により、YouTubeやスタディアプリで学校に行かなくても勉強ができる環境がある。コロナ渦が拍車を描けるように、大学等ではオンライン授業が主流になりつつある。情報社会創造社会における学びのあり方を考えていく必要が増している。

研究指導：山代　悟 教授　　Sakuragi Ayako

3.2参考事例

(1)海外の事例



4. コンセプト

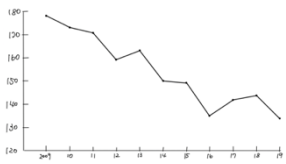
情報社会では、生活のデジタル化により、それぞれの場所で学べるようになった。それでもなお、学校に行く価値とは何か。門前の小僧のようにいつの間にか般若心経を唱えているようなそういった環境づくり、学び舎づくり、まちづくりが今の教育改革には必要であり、それは、体感すること（＝門前の小僧）だと考える。

人、もの、自然、建物、産業、歴史…。まちは学びの宝庫である。ものに触れ、自然を感じ、場所、建物を訪れ、産業を見て、歴史を知り、土地を踏み、知らず知らずのうちに大きな学びを手にしていることを目指す。激動の時代における、無意識的にまち全体を体感する学び舎の提案。

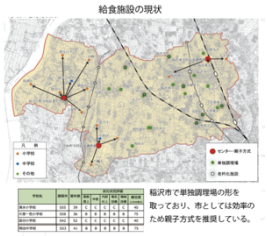
5. 対象敷地

5.1 敷地概要

愛知県稲沢市片原一色小学校を敷地とする。この地 区は、1学年1クラスであり、児童数が年々減っている。2013年には、近くの小学校3校と中学校を合併し、小中一貫校の計画もなされている。この計画にのっとった提案を行う。



5.2公共施設の老朽化



6. 終わりに

教育問題は奥が深く、建築だけでは到底解決はできない。 しかし、建築という、本来まちに根差すべきものが形を 変えていけば、学びの形も少しは変わると信じている。

畑で子どもが野菜を育てていく中で生物を学んでいく。 喫茶店で子どもがまちのお年寄りとお話しすることで、 コミュニケーションを学んでいく。工場でまちのベンチ を作ることにより、計算を学んでいく。このように、建 築の形を変えることで、実際の仕事と、まちの人と、ま ちの場所と、子どもの関係性が近くなり、学びに結びつ くことを大いに期待したい。そして、子どもがまちの潤 滑油となり、まち自体も明るくなるような提案にしたい。

参考文献

1)「学歴」は本当にいらない?現在不要なものアンケートで 1 位に
https://www.itmedia.co.jp/business/spv/2006/01/news093.html

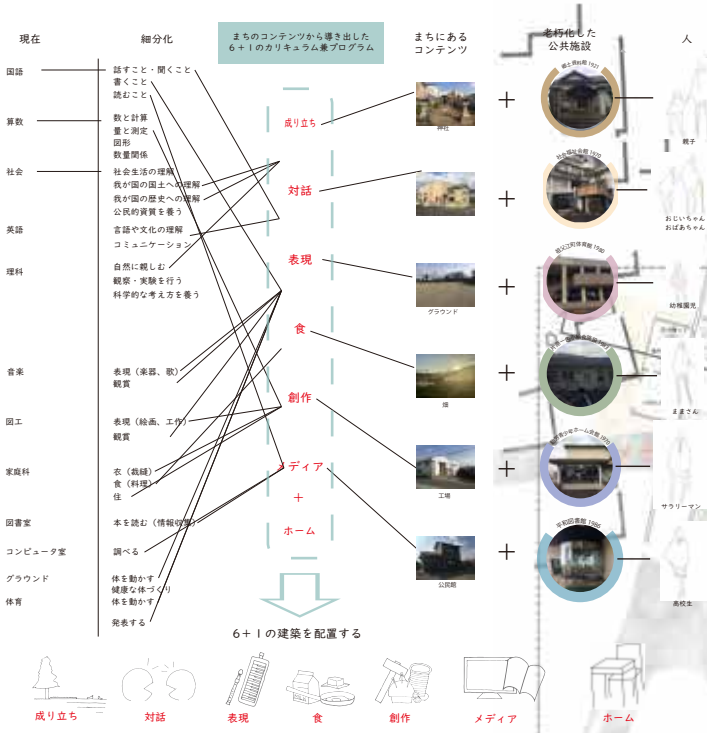
2) 学制百年史
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm

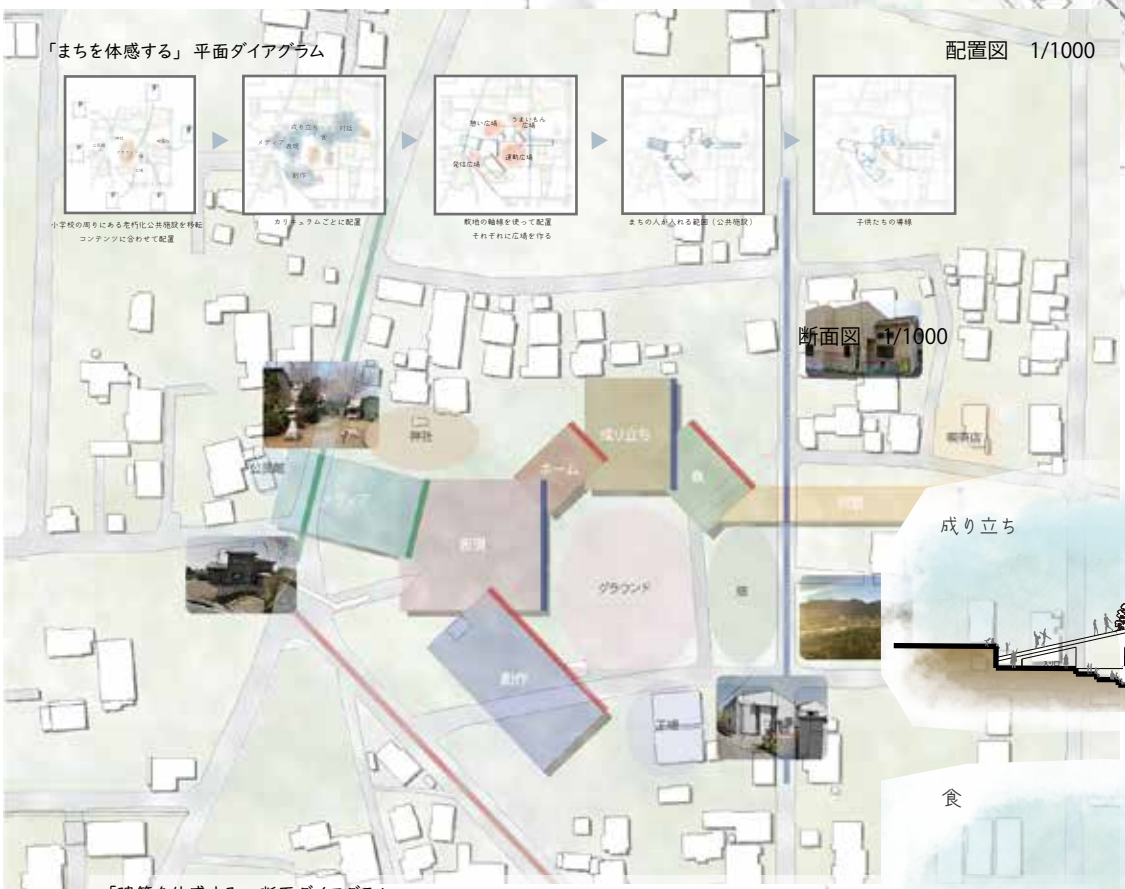
3) 小学校学習指導要綱
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/index.htm

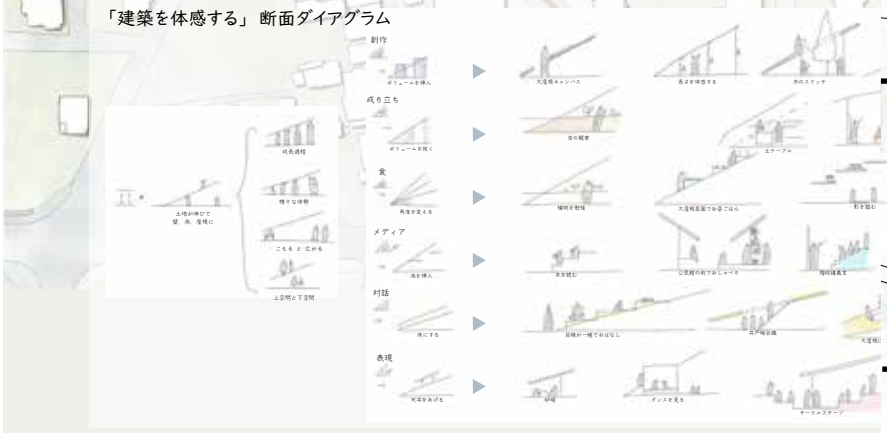
4)脱学校の社会 イヴァン・リッチ著

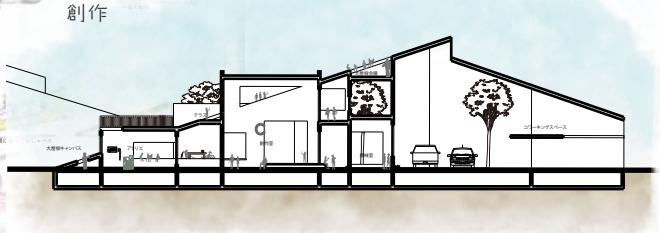
5) 学校建築の歴史
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017362.html

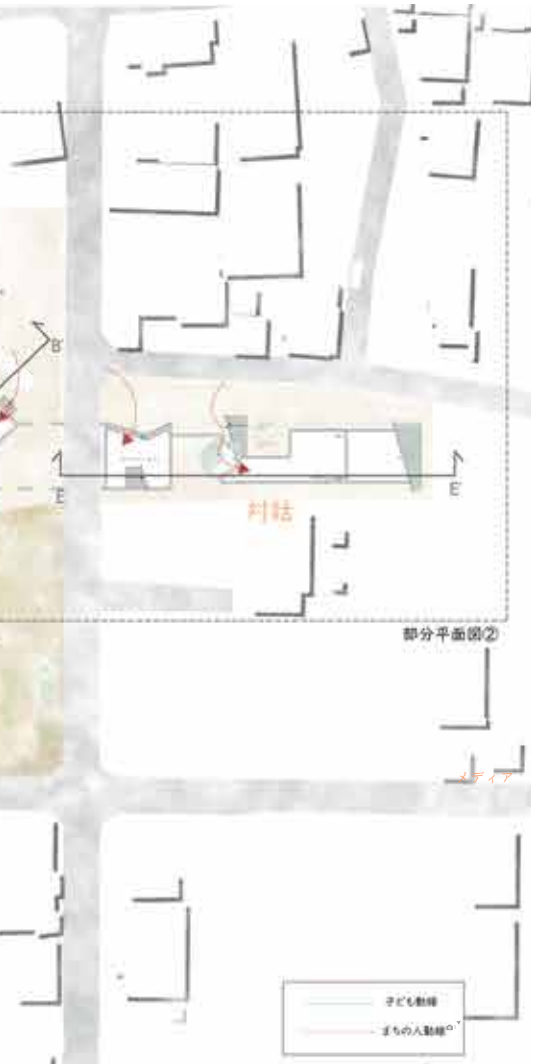
従来の「教科」を細分化し、
「体感」を軸に新たに再編成していく。



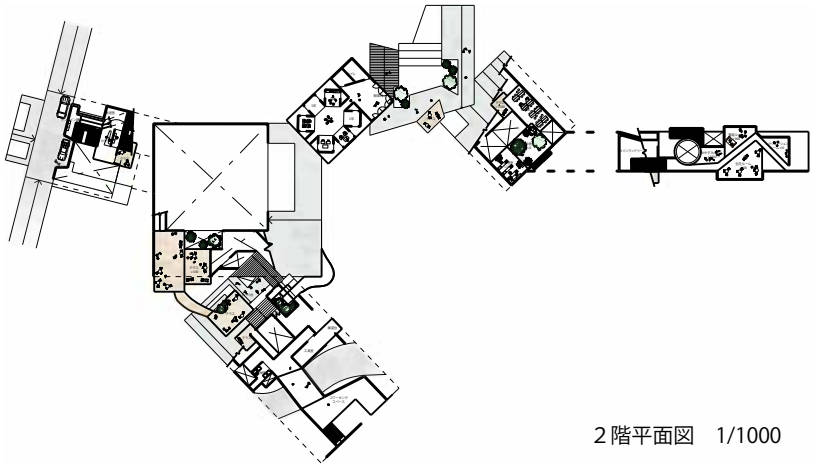




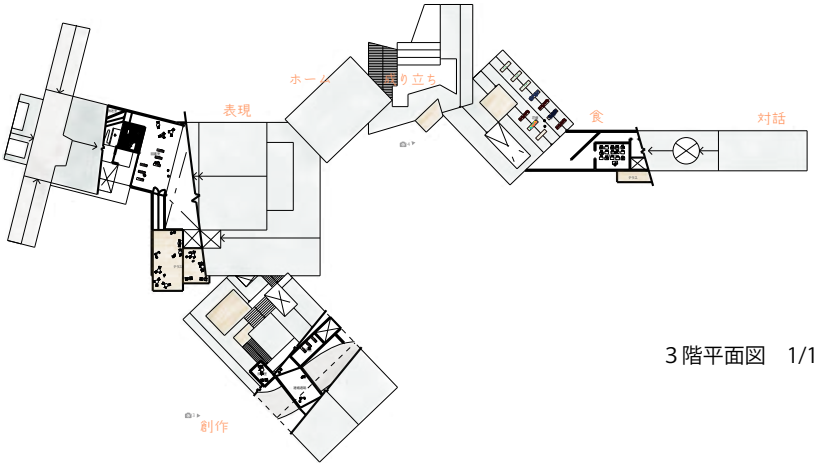
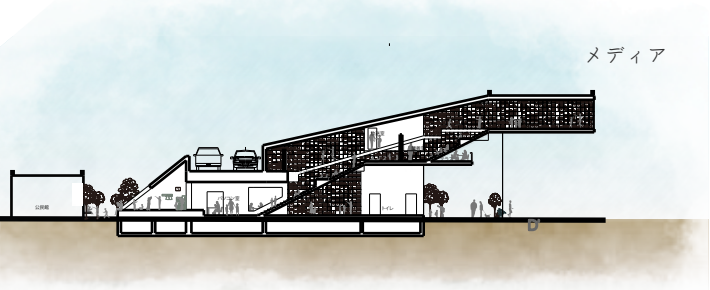
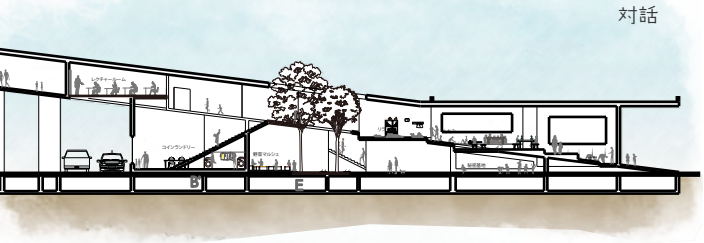
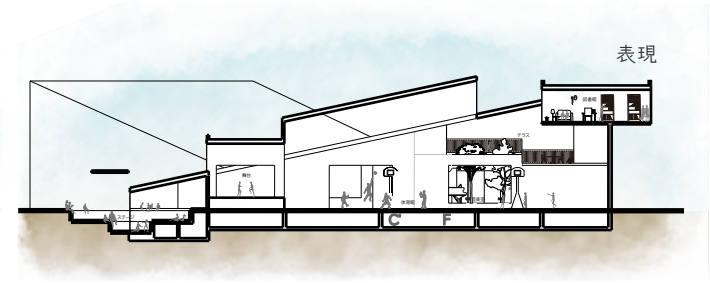




1階平面図　1/600



2階平面図　1/1000



3階平面図　1/1000